

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32657

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K04441

研究課題名（和文）医療と介護の連携・地域包括ケアのもとでのウェルネス・コミュニティ拠点に関する研究

研究課題名（英文）Research on "Wellness Community Bases" in Collaboration with Medical, Nursing Care, and Community-Based Integrated Care Systems

研究代表者

村川 真紀（MURAKAWA, Maki）

東京電機大学・未来科学部・研究員

研究者番号：90882019

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、ウェルネス・コミュニティ拠点の事例収集による分類と整理、また、事例の空間づくりの工夫や利用・運営実態の把握、新たな拠点の実装・設計プロセスの記録とともに利用実態と環境評価の把握を行った。

成果概要：ウェルネス・コミュニティ拠点は、現状は特に福祉系施設に併設されて活動を行う事例が多く、母体事業の付加的事業や地域貢献事業の一環として運営されていた。：空間の自由度や多目的・多世代の共存が可能な場づくりを可能にする可動的な設え、営利事業との兼業により運用の継続性を担保するなどがあった。

：ワークショップ実施により施設への期待感や多目的な場の利用への主体感が醸成されていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では「地域で暮らしを支える」医療・介護・福祉の連携に加えた、共助・互助コミュニティの醸成と構築に資する活動とその拠点を独自の統合的概念：ウェルネス・コミュニティの視点から実例を広く収集してデータベースを作成して整理した。また、具体的な事例の運用や利用の実態把握から、兼業する営利事業により非営利事業であるコミュニティ事業が安定的な運営に寄与する実態や新たな場所の創設が地域住民を包摂する新たな居場所が構築される様子などの、地域密着型の活動を醸成・維持定着させるための拠点整備の手法や工夫を示した。包括的視点での整理により、インフォーマルケアの実践の場の全貌の一端を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this study, we classified and arranged the case collection of the wellness community base, devised the space-making of the case, and understood the actual conditions of utilization and operation. We also comprehended the actual conditions of utilization and environmental evaluation, along with the record of the implementation and design process of the new base. The wellness community base operated as an additional project of the parent business and as part of the community contribution project, given the numerous instances where activities were carried out, particularly in welfare facilities. Flexible facilities were available to enable the development of a space that allowed for freedom and the coexistence of multiple purposes and generations, with operational continuity ensured by concurrent commercial activities. A workshop fostered anticipation for the facility and a positive attitude towards using the multipurpose space.

研究分野：建築計画

キーワード：ウェルネス・コミュニティ 地域交流 コミュニティ拠点 健康支援 地域密着 多世代交流 居場所
運営・利用実態

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

我が国では、2025年の税・社会保障一体改革に向けた、医療施設の機能分化と連携、地域包括ケアシステムの整備や、在宅医療制度の充実、各自治体での地域医療構想策定が進む。今後より加速する人口減・少子高齢社会の中で、「地域で暮らしを支える」医療の確立には、医療・介護・福祉の連携に加えて共助・互助コミュニティの醸成と構築が重要である。近年ではコミュニティナースや、暮らしの保健室、薬局併設カフェや健康測定のできるカフェなど、地域密着型の予防医療の取り組みが増えている。既往研究では地域交流拠点や複合福祉施設についての研究蓄積がある。これらをふまえて、病気・介護予防や健康増進の観点からこうした多様な拠点の運営や空間のあり方を連続的に把握することで将来の地域医療の質の向上に寄与しようとする。

本研究では、このような、地域包括ケア・地域医療構想の重要な支持基盤となり得る、地域の医療・介護機能と連携し、住民の心身の健康を積極的に守る互助的で多様なコミュニティを“医療・介護機能を起点に医療・介護・福祉の連携、病気・介護予防や健康保持の推進に資する Well.C（以下、Well.C）”として統合的に捉える（図1）。このような、将来の地域医療の質の向上に寄与する取り組みの事業の立ち上げや改善、効率的な拠点整備方針策定や課題解決方法の発展には、統一的視点者からの地域コミュニティ醸成の起点となる拠点に関する知見の充実、たとえば先行事例における工夫や課題のシェアが有効であると考えた。

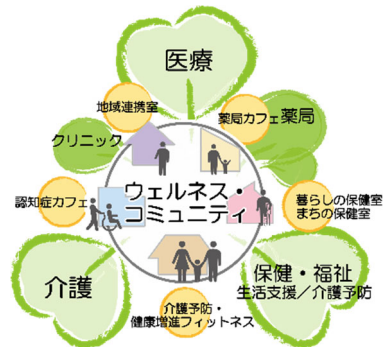


図1 ウェルネス・コミュニティの概念

2. 研究の目的

本研究では、Well.Cの形成と醸成の起点となる拠点を「Well.C拠点（以下Well.C拠点）」として統合的に捉える（図2）。Well.C拠点の定義に合致する事例を横断的に整理し、包括的な生活の中の医療福祉、保健の質を底上げするための施設間連携と拠点整備における計画的知見を得ることを目的とし、具体的に、以下3点を設定する。

【目的1】 Well.C拠点がもたらす住民や地域への効果、利用者や運営者のニーズ整理、運営実態の把握、利用者の主体的利用を醸成する建築や空間実装事例の収集。

【目的2】 Well.C拠点の効果と建築形態のあり方の関係の究明と運営モデルの整理。これらより、Well.C概念における医療・介護・福祉・予防・健康保持のための統合的解決の一翼を担う拠点の計画手法の提言。

【目的3】 多様な事例の統一的視点でのモデル化によるデータベースの作成、websiteによる情報発信など社会実装のための手法構築。

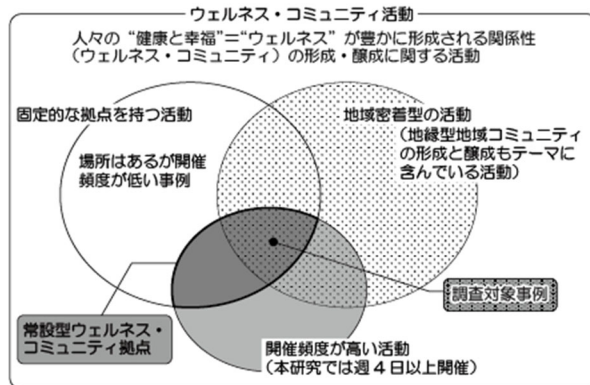


図2 ウェルネス・コミュニティ活動・拠点の定義

3. 研究の方法

上記の目的1、2に対して以下の調査、分析を行った。

【1】建築や空間実装事例の収集

【2】で収集した事例を対象に、Well.Cの定義に鑑み、地域密着型の活動、地縁型地域コミュニティの醸成も活動テーマに含む事例を取り上げる。具体的には、現地でのインタビュー観察、空間利用実態の観察調査、近隣地域住民へのアンケート調査などを行った。また、Well.C拠点を併設する建替えが行われる、医療生協による医療福祉複合施設のPOE調査と並行して、このプロジェクトにおいて地域交流スペースと位置づけられており、実態としてWell.C拠点となっている場所がどのように利用・評価されているかを、空間利用を把握する観察調査やプロジェクト参加者へのアンケート、インタビュー調査での実態把握を行った。

【2】Well.C拠点の効果と建築形態のあり方の関係の究明

該当事例の抽出を期待できるキーワード（表1）から、インターネットによる検索調査を行っ

た。なお、Well.C 拠点は「常設または仮設で利用者を招き入れる、場所を共にする活動が行われる場所」と定義し、オンラインサービスなどで場所を有さない Well.C 活動に含まれる事例は、本研究では対象外とした。収集事例の情報から、各事例が標榜する提供機能の分類、開催頻度、提供機能の数、建築的特徴として占有性の有無や建物内の位置づけでの分類、全国での分布、地域特性の類型、Well.C 拠点の併設元の建物が持つ機能（建物機能）を整理し、これらの関係を分析した。

表 1 検索キーワードとその組み合わせ

検索キーワード	
保健、コミュニティ、地域、まちづくり、医療	
暮らしの保健室、まちの保健室、認知症カフェ、薬局カフェ	
検索キーワードの組み合わせ	
①保健/コミュニティ	⑨医療/まちづくり
②保健/地域	⑩医療/コミュニティ/地域
③保健/まちづくり	⑪医療/コミュニティ/まちづくり
④保健/コミュニティ/地域	⑫医療/地域/まちづくり
⑤保健/コミュニティ/まちづくり	⑬暮らしの保健室
⑥保健/地域/まちづくり	⑭まちの保健室
⑦医療/コミュニティ	⑮認知症カフェ
⑧医療/地域	⑯薬局カフェ

4. 研究成果

1) Well.C 拠点の全貌

■提供機能による分類と傾向 各事例が標榜する提供機能を分類し [契機醸成/居場所醸成/専門家への相談/傾聴・役割/連携・ハブ/交流・関係醸成] の 6 分類を得た。拠点の開催頻度との関係から、契機醸成や居場所醸成には、週 1 日未満であっても恒常的に開催されること、つまりその「場」が設けられ続けることが重要であると指摘した。また、提供機能の数と開催頻度の関係から《契機醸成、専門職への相談、居場所醸成》が中心的な機能として運営されているとわかった。さらに、複数の機能が提供できる要因には、空間の規模や、運営スタッフの数などが影響している可能性があるものの、具体的な空間規模や運営人員数との関係は、各事例の詳細情報の収集をもとに検証する必要があると考察した。

■建築的特徴による分類と傾向 また、建築的特徴からは、占有性の有無と建物内の位置づけから A~D の 4 分類を得た (図 3)。現状では、建物の一部利用で、占有性を持たず他機能に併設され開催している事例が大半を占めた。さらに Well.C 拠点が持つ機能と建物特性タイプの関係では、福祉系施設が多く、介護保険事業所において地域貢献事業の実施が義務づけられたことを反映していると考察した。

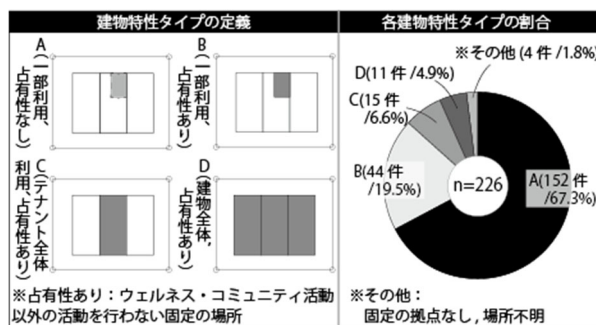


図 3 占有性の有無と建物特性による分類

■立地の地域特性による分類と傾向 地域特性では [都市型/地方小規模人口集中都市型/平野 (郊外) 農業エリア型/中山間地域型] の 4 類型を得た。地域特性と開催頻度の関係から、各地域特性共通で「福祉系」に併設される事例が最も高い割合を占めた。次に地域特性類型と Well.C 拠点の併設元の建物が持つ機能 (建物機能) の関係 (図 8) より、各地域特性共通で「福祉系」に併設される事例が最も高い割合を占めていた。

これらより、今後の研究発展のために、事例の詳細情報を含めたより詳細なデータベース作成やさらなる事例の収集などが課題としてあるものの、Well.C 拠点の全貌の運営・建築・地域特性面からの把握とモデル化、ならびに目的 3 に挙げたデータベースの作成を達成した。

2) 具体的事例の実態調査

実態調査を行った事例のうち、得に空間利用や運営について詳細が把握できた事例 2 件、また医療福祉複合施設に併設された事例での POE 調査並びに医療福祉施設自体の施設計画時のワークショップで得られた成果を以下に整理する。

①地方都心部に位置しジェラート店と兼業で運営される「暮らしの保健室あつぎ」

地方都心部に位置するジェラート店と兼業で運営される暮らしの保健室である。ジェラー

表 2 地域特性分類

各クラスター数値の読み取り	
a	【都市型】 可住地率高い、人口多い
b	【地方小規模人口集中都市型】 高齢化率低い、可住地率低い、人口多い
c	【平野 (郊外) 農業エリア型】 可住地率高い、人口少ない
d	【中山間地域型】 高齢化率高い、可住地率低い

ト店は暮らしの保健室の運営資金獲得や広報に寄与し、暮らしの保健室はイベント等の実施によりジェラート店の集客に寄与しており、持続的な場づくりが支えられている実態があった。このことから、営利事業と福祉事業が補完し合う仕組みづくりがウェルネス・コミュニティ拠点の持続的な運営に資する可能性を考察した。効果的な建築的工夫には、営利事業と福祉事業を階で分けつつ一部を吹き抜けてつなぐことが、各階の場の雰囲気の溢れ出しや空間全体としての一体感、そして相互の事業や活動への興味・関心の誘引の契機などに寄与していた。

②社会的処方先の先となる場所であり、医療・福祉関係者が運営する地域密着型の小規模図書館機能を併せ持った地域との交流の拠点「だいかい文庫」

だいかい文庫は、医療・福祉関係者の運営による、医療・福祉と地域をつなぐ公共的役割を担う特徴的な事例である。民間事業であることで小回りが利き多様な事業をテンポよく試験的に運用できることやコンセプトの作り込み、広報活動や空間づくりによってターゲットとする層（この場による支援に結びつきたい層）の呼び込み、地域住民や専門家とのネットワークづくりなどに非常に自由度が高く、公的セクターが提供するサービスに対して独自の特徴を有していることがわかった。効果的な建築的工夫に、商店街通りの歩道に面する大きな開口部による開放的なデザインかつ商店街通りとの視覚的交流が好意的な印象に寄与していた。夜間にはこの大きな開口から外に光があふれ、町の景観に対して明るい印象を与えており、それが寂れつつあった商店街のにぎわいの再生への好意的な期待に繋がっていると考察した。また、室内では、間仕切りを設けない一体的空間のなかに本棚の間にある一人用座席など、同一空間内における開放的な空間と閉鎖的な空間の混在が、多様な利用方法に繋がると示唆された。

③Well.C 事例併設の医療福祉複合施設である医療生協さいたま行田協立診療所、医療生協さいたま川口診療所の建替えワークショップ

地域の交流拠点として一般開放されるオープンスペースである行田協立診療所の Well.C 拠点は本体建物とは別棟で計画された独立型の場所である。ここでは、日常的に近隣の小・中学生の放課後や休日の拠点、大学生を含む成人からも日常の滞在場所として利用されていた。そのため、20 時までの開所など利用者属性によるニーズを考慮した運営時間が設定されていた。また、空間利用では複数人でも使用できるテーブルがグループでの利用を誘発し、同じカウンター席でも滞在時間によって場所が使い分けられている様子が観察できたほか、イベント時などは簡易パーティションを活用し、複数用途での使用や、滞在の混在を可能としていた。また、利用者と活動行為の関係から、ひとり利用をしやすいカウンター席が若年層の利用呼び込みに寄与していた。このように、室を壁などで区切らず一室として計画し、パーティションなどの可動什器により適宜仕切ることによって、空間活用の自由度を高めて多世代の多目的な利用に対応している実態が明らかになった。これらより、建築的工夫として、利用者や立地の差異に関わらず、通常利用とイベント利用といった複数用途での共存に対し柔軟に対応できる空間づくりの重要性が示唆された。

建替えワークショップの記録と評価では、ワークショップを重ねるごとにワークショップ参加者の施設を利用したい気持ちが高まっている反面、気づきや意見の発出における満足感が低く、WS の運営や進め方について課題が見られた。

④自治体が積極的に立ち上げ・運営に協力している点が特徴的な事例である「中間支援組織・ゆりラボ（以下、ゆりラボ）」

高齢化率 50%を超える超高齢化進む愛媛県の久万高原町にある、役場主導の地域活性化活動を発端に発祥した中間支援組織である。2021 年にまちなかの商店をリノベーションして拠点とし、起業支援などの地域活性化・支援活動、コミュニティナース事業やコワーキングスペース運営などを久万高原町役場から業務委託として請負って運営をしているほか、独自の事

業も行っている。独自事業と委託事業を組み合わせることで安定的な運営を図っており、コミュニティナースが介入することでの地域住民のコミュニティ形成などに寄与している。近隣への意識調査からは、事例のある地区では、コミュニティナースによる日常生活の中での声掛けや訪問での周知活動の成果が反映された結果がみられた一方、離れたエリアの地区では、利用に至らないが興味があるとの回答もあり、アウトリーチの余地がみられた。かかりつけ病院に関する設問では、町内のクリニックが健康に関する相談先として機能している可能性があり、今後、地域の医療機関へのインタビューや利用圏域、医療福祉連携の実態調査などを通して、現在は積極的には行われていない、コミュニティナース活動やその活動拠点との連携のあり方を検討する必要があることを今後の課題として挙げた。観察調査などから得られた拠点の環境整備に有効な工夫として、高齢者への椅子座の提供、また複数グループの利用と滞在に対応する分割可能な什器があげられる。また、同等のケアレベルでのグループ構成、利用者の個人対個人のコミュニケーションでケアレベルに差がある場合は長時間にならないよう介入するなどの運用も重要であると指摘した。

3) website による情報発信など社会実装のための手法構築

収集した事例は可能な範囲で HP などから情報を収集し、各事例を説明する文章やカテゴリとともに web 記事を作成した。これとともに、各事例でのインタビュー調査の成果などは、共同研究者（山田）によって作成された、事例の発信・共有のオープンデータベースである「PROJECTS' CATA-LOG（プロジェクトスカタログ）」を有効活用して web サイト上で一般に広く公開した。

4) まとめ・今後の展望

このように、事例の収集から Well.C 拠点の全貌を整理するとともに、いくつかの具体的な事例を対象とした実態調査を通して、1)～3) に挙げた Well.C 拠点の普及や設立に効果的な成果を得た。同時に、より詳細な調査や新たな視点での調査の必要性も発見し、継続した研究の必要性を確認できた。具体的には以下の点が挙げられる。

- 1) 各自治体で実施している、健康支援の施策と連携機関や拠点の把握
- 2) 対象事例での継続調査による、所属コミュニティの規模や繋がり、地域の医療福祉拠点の連携の実態、Well.C 拠点との連携の可能性
- 3) 詳細調査を行う具体的な事例、地域の追加

これらの新たな研究課題を踏まえて、研究期間終了後も継続して Well.C 拠点に関する研究を継続する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 永原大聖, 正能健太, 村川真紀, 山田あすか	4. 巻 41
2. 論文標題 ウェルネス・コミュニティ拠点の類型化と 2 事例を通してみる 地域単位でのウェルネス・コミュニティ活動展開の実態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域施設計画研究41	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村川真紀	4. 巻 41
2. 論文標題 まちの人が一箱本棚オーナーとなる小さな図書館と居場所,そして健康相談の融合 本と暮らしのあるところ だいかい文庫	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域施設計画研究41	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rina MEKATA, Maki MURAKAWA, Asuka YAMADA	4. 巻 58
2. 論文標題 Health of Urban Places Using 'Teishoku Place Theory' Focusing on the Balance of place	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ISOCARP WORLD PLANNING CONGRESS PROCEEDINGS	6. 最初と最後の頁 558-569
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田豪, 村川真紀, 山田あすか	4. 巻 40
2. 論文標題 医療・福祉・健康を支援する地域拠点4事例での運営・利用実態報告 地域密着型ウェルネス・コミュニティ拠点についての研究 その1	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域施設計画研究40	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 正能健太, 村川真紀, 山田あすか	4. 巻 40
2. 論文標題 組合員が参加するワークショップを通じた医療複合施設への環境評価とその意識 —医療生協さいたま川口診療所の建替プロジェクトに関する POE 研究 その1—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域施設計画研究40	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田広奈, 村川真紀, 山田あすか	4. 巻 40
2. 論文標題 地域包括ケア病床および病棟の機能整理と看護動線に着目した空間構成の検証 —関東圏の病院を対象に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域施設計画研究40	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 米ヶ田里奈, 山田あすか, 村川真紀, 内野敬, 小辻有美, 田中邦明, 根本隆洋	4. 巻 40
2. 論文標題 若年者の地域包括ケアの入り口, 多職種チームによるケースマネジメントの拠点「若年者ワンストップ相談センター SODA」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域施設計画研究40	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 豊島葵, 村川真紀, 山田あすか	4. 巻 40
2. 論文標題 寺院による地域活動の分類整理と活動時の寺院境内の使われ方及び利用者の意識に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域施設計画研究40	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 村川真紀
2. 発表標題 ウェルネス・コミュニティ拠点とみなせる医療福祉複合施設の地域交流スペースの運用実態と診療所建替えワークショップの効果
3. 学会等名 2024年度日本建築学会大会（関東）学術講演会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山口裕樹
2. 発表標題 多世代に親しまれる「ジェラテリア」と暮らしの保健室を一体として運営される事例の運営・利用実態
3. 学会等名 2024年度日本建築学会大会（関東）学術講演会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 あすか (YAMADA Asuka) (80434710)	東京電機大学・未来科学部・教授 (32657)	
研究分担者	古賀 政好 (KOGA Masayoshi) (20751225)	東京電機大学・未来科学部・研究員 (32657)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------